

## ごあいさつ



一般社団法人岩手県芸術文化協会  
第72回岩手芸術祭実行委員会

会長 柴田 和子

岩手県民の文化芸術の祭典として定着しております岩手芸術祭は、昭和22年に第1回が開催されて以来これまで回を重ね、今年度は第72回目の開催となりました。これもひとえに県民の皆様のご理解、御支援の賜と深く感謝申し上げます。

岩手芸術祭の開幕行事である岩手芸術祭の総合フェスティバルは、これまで岩手県民会館のみでの開催が恒例となっておりましたが、平成29年度から、地域における鑑賞機会の提供や地域の文化催事との連携を行うことで、岩手の文化芸術の魅力を総合的に発信していくために、盛岡市以外の地域でも開催しております。

第3回目となる今年度の地域開催は、久慈地域で開催することになりました。

今回のフェスティバルは、「ビューティフル・ハーモニー ～明日という日のプロローグ～」をテーマにプログラムを構成し、久慈広域の市町村と県内の文化芸術団体の共演により、県内最大の文化の祭典に相応しい、多種多様なステージが繰り広げられます。

本フェスティバルの開催により、久慈広域の芸術文化が、今後、更に発展・振興されますよう期待しております。

どうか最後までごゆっくりご鑑賞をいただき、温かい御声援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本事業の開催にあたり、御尽力くださいました、久慈広域の市町村の関係団体をはじめ、関係者各位に心から感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



## あすという日が

作詞：山本 櫻子 / 作曲：八木澤教司

大空を見上げてごらん あの枝を見上げてごらん  
青空に手をのばす細い枝 大きな木の実をささえてる  
いま生きていること いっしょうけんめい生きること  
なんてなんてすばらしい

※ あすという日があるかぎり しあわせを信じて  
あすという日があるかぎり しあわせを信じて ※

あの道を見つめてごらん あの草を見つめてごらん  
ふまれてもなおのびる道の草 ふまれたあとから芽ぶいてる  
いま生きていること いっしょうけんめい生きること  
なんてなんてすばらしい

※ あすという日がくるかぎり 自分を信じて  
あすという日がくるかぎり 自分を信じて ※

しあわせを信じて

(※ —— ※ みなさん 一緒に )

### ◎ 主 催 ◎

岩手県 岩手県芸術文化協会 岩手県文化振興事業団 岩手日報社  
IBC岩手放送 テレビ岩手 めんこいテレビ 岩手朝日テレビ エフエム岩手  
久慈市教育委員会 久慈市芸術文化協会 洋野町教育委員会  
洋野町芸術文化協会 野田村教育委員会 普代村教育委員会

### ◎ 後 援 ◎

盛岡市 NHK盛岡放送局

### ◎ 協 力 ◎

運営補助 岩手県立久慈高等学校演劇部

### ◎ 企 画 ◎

— 岩手芸術祭総合フェスティバル企画運営委員会 —

構成・演出……………大森 健一 (岩手県演劇協会)  
演出補佐……………大沼 まゆみ (岩手県洋舞協会)  
民俗芸能コーディネーター 藤沢 清美 (岩手県民謡協会)  
合唱コーディネーター 太田代 政男 (岩手県合唱連盟)  
舞台監督……………近藤 英一  
舞台美術コーディネーター 小笠原 卓雄 (岩手芸術祭美術展現代美術部門)

### ◎ 問い合わせ先 ◎

岩手県芸術文化協会 TEL. 019-626-1202

携帯電話の電源はお切りになるか、マナーモードにお切り替えてください。  
主催者の許可のない撮影・録音は禁止させて頂いております。  
大ホール客席での飲食は禁止となります。



《総合フェスティバル in 北三陸》

第72回

# 岩手芸術祭



テーマ  
「芸術で拓く新しい時代 ともに築く岩手の文化」

2020年1月19日(日)

開場 12:30 開演 13:00  
久慈市文化会館 アンバーホール

# プログラム

司会：甲斐谷 望（IBC岩手放送アナウンサー）

テーマ：「ビューティフル・ハーモニー」  
～明日という日のプロローグ～

## — 第1部 —

### ▼ 「太鼓」 種市海鳴太鼓&おおの鳴雷太鼓

(1) 演 目／「～んだら～ See You Again」  
種市海鳴太鼓とおおの鳴雷太鼓の共演。被災した魂を鎮め、困難に打ち克ち、笑顔でまた会おうといった願いをこめた「祈り・打克つ・祭り」の3部構成からなる「～んだら～ See You Again」で幕開け。

(2) 出演者／  
◆種市海鳴太鼓  
種市海鳴太鼓は、結成35年を迎え、ふるさと『たねいち』を太鼓で表現する。四季折々に見せてくれる『ふるさとの海』とその海に生まれ、海と戦ってきた『南部めぐり』の重量感あふれる勇壮な姿を「ふるさとの鼓動」として聴く人の心に響く太鼓を打ち続ける。

◆おおの鳴雷太鼓  
平成12年に、村の太鼓教室を受講した若者たちによって結成された。指導と曲は秋田県の劇団わらび座から受け、名前は皆に愛される太鼓となるよう、村の鎮守である鳴雷神社からいただいた。子供から大人まで幅広い世代のメンバーで活動中。

### ▼ 「フラメンコ&津軽民謡」 中田 佳代子／岩手県民謡協会

(1) 演 目／「DODAREBACHI ～Quien eres?～」  
世界各国にある伝統芸能で芸術の発生の仕方は非常に似ており、土着的。フラメンコと民謡の歌詞を聞けば、日々の生活、嘆き、喜び、などが歌われているのが共通点である。人類皆兄弟！世界平和を願い、個性的なザ・盛岡出身者5人でおくるオリジナルな一曲。是非会場の皆さんも好きな場所まで遠慮なく掛け声をかけて下さい！オレ！

(2) 出演者／  
◆バイラオーラ／中田 佳代子  
フラメンコ冒険家。バルセロナと盛岡を拠点に、国境なく活動中。  
◆津軽三味線／三代目 井上 成美  
若手津軽三味線演奏家  
◆唄／吉田 やす子（津軽民謡）  
平成30年度一般財団法人日本郷土民謡協会全国大会グランプリ受賞。  
◆横笛／藤沢 東清  
岩手県民謡協会会長  
◆パルマ／佐藤 真知子  
カヨコフラメンコスタジオ 講師

### ▼ 「ダンス 群舞」 藤井淳子ダンススタジオ 岩手県洋舞協会

(1) 演 目／群舞「たったひとつの」  
(2) 出演者／  
◆藤井 淳子ダンススタジオ  
飯島 福 石井 知花 遠藤 冬萌 菅原 円花  
渡辺 陽登 八重樫 璃子  
第32回こうべ全国洋舞コンクールモダンダンスグループ部門優秀賞（第1位）。  
第76回全国舞踊コンクール現代舞踊第2部入賞（第8位）。  
なかの東京国際コンペティション2019中学生部門第2位。

### ▼ 「ヒップホップダンス」 野田村ダンスチーム（ファンキッズ東北&ハナザイル東北）

(1) 演 目／「ファンキッズ東北&ハナザイル東北 オリジナルダンスメドレー」  
(2) 出演者／野田村ダンスチーム（ファンキッズ東北、ハナザイル東北）  
今年度で4年目となる野田村のヒップホップダンスチーム。年長～小学5年生までの「ファンキッズ東北」と、小学6年生～お母さん方で構成の「ハナザイル東北」の2チームによるオリジナルダンスメドレー。

### ▼ 「岩手の二大盆踊り競演」 岩手県立雫石高等学校郷土芸能委員会 帯島盆踊り保存会

(1) 演目1／「上駒木野さんさ踊り」  
◆岩手県立雫石高等学校郷土芸能委員会  
郷土芸能委員会の前身は「よしゃれ研究会」で、1995年に委員会として創設され、およそ40年の歴史がある。今回の演目「上駒木野さんさ踊り」は雫石地域の中でも、七色の腰帯が揺れるように腰を入れて踊るのが特徴である。全国高校総合文化祭にて、平成9年、17年、25年優秀賞受賞、令和元年文化連盟受賞。本日は1、2年生13名で9演目を披露する。

(2) 演目2／「ナニヤドヤラ」  
◆帯島盆踊り保存会  
洋野町大野地区で毎年開催される北奥羽ナニヤドヤラ大会。その令和元年第30回大会の最優秀賞受賞チーム。北奥羽圏域に広く伝わる盆踊り「ナニヤドヤラ」の数種の踊りのうち、二つ甚句、三つ甚句、四つ甚句を組み合わせて踊る。

ジャグリングパフォーマー／山村 佑理  
ジャグラー、ダンサー、役者。2009年ジャグリング世界大会決勝出場、2010年全国大会銀賞を受賞。ボールと一緒に踊る表現で、国内・海外のイベント、舞台、サーカス公演に出演。盛岡市在住。

## — 第2部 —

主催者挨拶：岩手県文化スポーツ部長 菊池 哲

### ▼ 郷土芸能「夏井大梵天神楽」 夏井大梵天神楽保存会

(1) 演 目／「利生舞」  
演目はかつては50以上あったというが、現在では「権現舞」「獅子番額舞」「利生舞」など20演目。特に右手に錫杖、左手に扇子を持ち、また米を入れた三宝や御神酒を持ちながら舞う「利生舞」は、山伏神楽では伝承例が少ない演目の一つで、貴重である。  
(2) 出演者／夏井大梵天神楽保存会  
神楽を継承してきた播磨家の伝承によると、先祖は山伏修験者で、播磨の国（現在の兵庫県）から大梵天不動明王を背負って夏井に移住して大宝院を建立、その権現さまを奉じて行うカスミ（旦那）廻りの神楽を編み出したのが起源といわれる。岩手県指定無形民俗文化財。

### ▼ 郷土芸能「中野流鶉鳥七頭舞」 普代村立普代中学校七頭舞同好会

(1) 演 目／「中野流鶉鳥七頭舞」  
「道具取り」「横跳ね」「チラシ」「戦い」「ツットウツウ」「三足ふみ」「道具収め」の7つの踊りから構成され、踊り手が持つ道具も7種類あり「七頭舞」の語源といわれている。  
(2) 出演者／普代村立普代中学校七頭舞同好会  
中野流鶉鳥七頭舞は、普代中学校の伝承活動として、岩泉町小本の中野地区に伝わる中野七頭舞を基に発足した郷土芸能。今年度は16名で活動。

### ▼ 「マンドリン」 岩手県立久慈高等学校マンドリン部

(1) 曲 目／「舞踊風組曲第1番」 久保田 孝 作曲  
(2) 出演者／岩手県立久慈高等学校マンドリン部  
指 揮／村上 かの  
「SMILE」をモットーに、部員一同日々の練習に励んでいる。令和元年10月の県コンクールでは最優秀賞を受賞し、3年連続で全国高総文祭に出場。今回演奏する曲は、様々な「踊り」を表現した曲でテンポや拍子、場面が目まぐるしく変化する。どんな「踊り」なのか想像しながらお楽しみ頂きたい。県高校総合文化祭で3年連続最優秀賞受賞。

### ▼ 「ピアノ」 佐藤 彦大

(1) 曲目1／「乙女の祈り Op.4」 バダジェフスカ 作曲  
曲目2／「ボロネーズ第6番変イ長調 Op.53 英雄」 ショパン 作曲  
(2) 出演者／佐藤 彦大  
岩手県出身のピアニスト。第5回サン・ニコラ・ディ・バリ国際ピアノ・コンクール（イタリア）第1位、第21回リカルド・ピニェス国際ピアノ・コンクール（スペイン）第2位。第62回マリア・カナルス・バルセロナ国際音楽コンクール第1位優勝。

### ▼ 「合唱」 久慈市立山形中学校

(1) 曲目1／「山形中学校校歌2部合唱」（全校生徒）  
曲目2／「いざ立て戦人よ」（全校生徒）  
曲目3／「記憶」（特設合唱部）  
曲目4／「あなたは風」（特設合唱部）  
曲目5／「風紋」（全校生徒）  
曲目6／「斎太郎節」（全校生徒）  
(2) 出演者／久慈市立山形中学校 全校生徒  
指 揮／（曲目1～2）田端 怜夢  
指 揮／（曲目3～6）高坂 希  
全校生徒でアカペラの合唱曲に取り組んでいる。本日は、アカペラ合唱曲を全校生徒49名で合唱。第71回全日本合唱コンクール岩手県大会特設合唱部銅賞受賞。

### ▼ 「合唱」 久慈広域合唱団7団体

(1) 曲 目／「走れ！三陸鉄道」 宇部 京子 作詞 上田 益 作曲  
三陸鉄道の開通を願って作られた合唱曲。「じょっぱれ けっぱれ くじけるな！」と歌われるその想いは、東日本大震災の被災地はもとより、全国各地の自然災害の被災地の人々にも勇気と希望を与えてくれるに違いない。  
(2) 出演者／レクイエム・プロジェクト北いわて（久慈市）  
コーラスグループ琥珀エコー（久慈市）  
ミラクルズ（久慈市）、コーラスけやき（久慈市）  
グリーンエコー（洋野町）、コールわさらび（野田村）  
てぼかい合唱団（普代村）  
指 揮／片山 美也 ・ ピアノ伴奏／廣崎 恵

### ▼ フィナーレ 「あすという日が」 出演者 作詞／山本 瓊子 作曲／八木澤 教司

平成18年全日本合唱教育研究会（大阪）の委嘱作品として生まれた合唱曲。大震災直後、仙台市立八軒中学校の皆さんが学校に避難した被災者の皆さんの前で歌い、生きるエネルギーを与えた。岩手県でも多くの音楽団体が慰問に訪れて歌った曲。「あなたの歌で、おなかは満たされないが、心は満たされたよ！」の一言が今も印象に残る。  
(1) 指 揮／太田代 政男  
(2) 伴 奏／佐藤 彦大（ピアノ）